

PHOENIX CONFERENCE 2002 — Teaching Strategies to Motivate Student Learning —

7月26日(金)～28日(日) 場所：2・3号館

先進的なハワイ州教育局から講師を招いてお贈りする二つのワークショップ

■ 第6回ELLCプログラム英語教育ワークショップ

生徒の学習意欲を高める方法を、中・高校の教員や塾講師に至るまで、教育に携わったかたがたに学習していただく機会を用意しています。授業でのマルチメディアの活用方法、リーディング、ライティングだけでなく、コミュニケーションな英語能力向上を視野に入れ、より魅力的な授業作りに役立つ情報を満載し、皆様のご参加をお待ちしています。

【お問い合わせ】国際センター ellc@uta.osaka-gu.ac.jp

■ 第4回MELOPワークショップ

小・中・高校教員を対象として、コンピュータを使った教育についてのワークショップを3日間にわたり実施します。目覚ましい速度で進むIT化に対応することは、教育現場においても、未来の社会を支える子どもたちを育てるという意味で、特に重要な要素となっています。そのような教育現場で展開していけるような技術と知識を学んでいただくためのコンテンツをMELOPワークショップでは用意しています。

【お問い合わせ】メディアセンター media@uta.osaka-gu.ac.jp

※詳しくは公式ホームページ (<http://www.osaka-gu.ac.jp>) の「Event Calender」7月をご覧ください。

短期大学事務室

下記のとおり検定試験の申し込みを受け付けます。

試験日	試験名	申込締切	受付場所
6月23日(日)	秘書技能検定試験(1・準1・2・3級)	5月11日(土)	学部生・短大生：短期大学事務室
7月6日(土)	日商文書技能検定試験(4級)	6月1日(土)	学部生：エクステンションセンター 短大生：短期大学事務室
7月13日(土)	ビジネス文書検定試験(1・2・3級)	6月1日(土)	学部生・短大生：短期大学事務室
7月14日(日)	日商文書技能検定試験(3級)	6月1日(土)	学部生：エクステンションセンター 短大生：短期大学事務室



『日本語学と言語学』

神田 靖子
国際学部 助教授 共著
明治書院

新 刊
紹 介

『未完の経済外交
～幣原国際協調
路線の挫折』

佐古 丞
国際学部 助教授 著
PHP研究所

大阪学院大学広報

L'horloge ロルロージュ No.117
April 2002

- 発行 大阪学院大学
大阪学院短期大学
- 編集 広報部

〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
☎(06)6381-8434(代表)

URL
<http://www.osaka-gu.ac.jp>

編集後記

教育界全般で「学力の低下」が議論されている。我が大学においても例外ではない。教育制度や教育環境の改革が必要とされているが、加えて「らしさ」の喪失を再考する必要がある。「教師らしさ」「学生らしさ」の喪失である。教師には教師としての夢と心構えが、学生には学生としての夢と心構えがあり、それが「らしさ」を形成してきた。そして、双方の「らしさ」が、信頼によって結合されるところに、教育の成果が実現されてきたはずである。昨今の状況は、夢を持たない、持つ方法を知らないために、当然ながら夢を実現するための心構えを不必要としている。それが、「らしさ」の喪失、信頼の不在、ひいては「学力の低下」につながる原因でもある。

何はともあれ、夢を持ち、夢を実現するための心構えの確立に努力しようではないか。その意味では、次の言葉は非常に示唆に富んでいる。「夢を持ち、夢を実現する秘訣は、「好奇心」「確信」「勇氣」「忍耐」の四つの言葉に要約される。なかでも最も重要なのは確信することである。(Walt Disney)」



自然保護のため、この広報は
再生紙を使用しています。

L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations Bulletin

ロルロージュ No.117
April 2002

ESSAY
谷口 高士

FOCUS
Campus Map

VOICE
大学構造改革
～今考えるべきこと～

CAMPUS LIFE
CAMPUS NEWS DIGEST
INFORMATION
新刊紹介

ESSAY

4

『写真：自分の心を記録するもの』

初めて意識的に「写真を撮った」といえるのは、小学6年生の修学旅行のときでした。「キヤノン・デミ」というハーフサイズ版の、その当時、家にあった唯一の貴重な(笑い)カメラを借り受けて、車窓からパチリ、船のデッキからパチリと、旅行先の風景や友達を撮りました。これをきっかけにして、私は写真を撮るという行為そのものに、大きく引かれていきました。

かつて、中学3年生のとき。

同じクラスに写真好きの友達が数人いました。そのことを知った物好きな担任と結託して、自分たちのクラスだけのアルバムを作ろうということになりました。首尾よく担任の許可を得たやんちゃなカメラ小僧たち(特に私を含めた3人)は、学校にカメラを持ち込んでクラスのように撮り始めました。授業風景、休み時間、弁当、放課後、個人発表、クラスマッチ、文化祭……と、事あるごとにクラスメートの写真を撮りました。そうして撮りためた膨大な量の写真から、様々なシーンの『傑作写真』を選び、コメントをつけ、印刷所で冊子にしてもらったのです。今でも持っています。業者製のきれいなものとはまた違う、下手だけど自分たちで撮り、書き、作ったアルバムを見ると、胸が詰まるような思いを感じます。すでにこの世にいない顔もあります。高校受験を控え、勉強もきつかったし、友人関係や恋愛にも悩んだ中学3年生、でも、とても充実した日々を送っていた中学3年生の『あの日』が、その1冊に凝縮されているのです。



このときの写真は、技術的にはお世辞にも上手とはいえないし、芸術的でもありません。でも、自分の見たまま感じたままに『心の時間を止める』ことが、私にとっての写真行為の原点になりました。いまだに私の写真は、あの、中学3年生のときの延長なのです。出来上がった写真はもちろん大切ですが、シャッターを切る瞬間そのものに、とても大きな意味があるのです。その時々メインの被写体は年々変わります。けれど、いつも撮りたいものは、そこに生きている人の表情であり、気持ちであり、人生であるとともに、それを写している自分の心そのものでもあるのです。

たとえば、結婚式。

いかに結婚観が変わってこようと、やはり人生の大きな晴れ舞台。撮る側は何回も撮っていても、本人にとっては生涯一度。いちばんよい表情を撮ってあげたい。何よりも撮り直しが利かない。ですから、数日前から、撮影側の緊張も非常に高くなります。式次第、披露宴の進行表、座席表などは、事前に本人からいただいておき、希望も伺っておきます。気を遣うのは、儀式である結婚式の撮影です。神社やお寺は写真撮影禁止の場合が多いのですが、ホテルなどでは神前式でも制限付きで撮影を許可されることもあります。教会やチャペルでは、たいてい



谷口 高士 情報学部 助教授
 担当科目：記憶機構論・感性情報論
 趣味：写真撮影・推理小説・SFファンタジー
 著書：『音は心の中で音楽になる』『感情と心理学』

自由に撮影できますが、リハーサルの際に神父さんあるいは司祭さんにどの程度動いてよいかを確認しておきます(絶対にやってはいけないのが、式の最中にバージンロードを横切ることです)。披露宴では、撮影ポジションに移動するために、進行の一步先を心掛けます。そして、司会者や式場マネージャーなどと随時打ち合わせながら撮影します。だいたいフィルム10から12本程度撮りますから、400枚ほどになります。友人や先輩後輩などこれまで20数組、本学の職員さんも7組撮らせていただきました。強く印象に残っている結婚式が、たくさんあります。



たとえば、大学の音楽クラブのステージ。

リハーサルでの期待と不安が混ぜこぜになった表情、本番での真剣で緊張感あふれる表情。うまくできてホッとした瞬間、失敗して照れくさそうな顔。プロと違って今このときしかない学生時代独特の、幼さと大人っぽさが同居した表情。卒業生紹介のときの、うれしくも悲しいスポットライト。メインの曲が終わったときの安心感。アンコールの拍手、エンディング、そして、幕。高揚感、開放感、虚脱感。これほどの感動を、生涯に何度味わうことができるでしょう？

たとえば、子ども。

保育園で、小学校で、家で、公園で、遊び、学び、笑い、泣く子どもたち。昨今ではなかなか難しくなりましたが、公園で見ず知らずの子どもたちやお母さんたちと話しながら撮らせてもらったこともあります。保育園や小学校では、日ごろから顔を見せていると、いつしか『カメラのおっちゃん』として定着し、子どもにも保護者にも覚えてもらい、構えない自然な姿を撮ることができるようになりました。運動会や学芸会といった大きな学校行事、授業参観、PTAや地域団体の催しなど、多いときは年間約100本、枚数にして2000から3000枚ほど撮ります。整理するだけで泣けてきそうな量ですが、そこに残る子どもたちの表情は、実に貴重な生命の記録です。



そして、今。

フィルムスキャナーと自作のパソコンで写真をデジタル化して、それをフォトショップというソフトで調整して印刷しています。写真屋さんに出しても、なかなか思いどおりのイメージで仕上がらないので、いっそ自分でやってみようというわけです。A3にプリントすると、ほぼ四つ切りワイドの大きさです。この大きさだと少し離れて鑑賞しますから、インクジェットプリンタで出力したものは、本物の写真とほとんど見分けがつかません。傷やほこりを取り、色調やコントラストを調整し、用紙に合わせてトーンとシャープを決めます。まさに、明るい暗室です。撮る写真から、見る(見せる)写真に、最近、ちょっとだけ意識が変わってきたのかもしれない。

FOCUS

～ Campus Map ～

会計課・庶務課 入試事務室(1F)

大学院事務室(2F)

大学院学内選抜で本学大学院へ進学希望する
学部生はこちらで詳細確認してください。

就職センター(2F)

学生個々の分析と職業・企業の分析を行い、求職ニーズ(学生)と
人材ニーズ(企業)とのマッチングの支援を行います。

教務課(2F)

履修指導・相談、休学等の学籍関係、成績管理、
教職・司書・学芸員・図書館司書課程取り扱い

卒業証明書(手数料 1通 200円)
英文証明書(手数料 1通 1,000円)
単位修得証明書(教職)(手数料 1通 200円)

証明書自動発行機(2F)

以下の証明書については、窓口の申し込み手続きが一切不要。
簡単な手続きで即座に発行できます。

在学証明書	学割証 無料
成績証明書	
単位修得証明書	稼働時間
卒業見込証明書	月～金曜日 9:00～18:00
成績・卒業見込証明書	土曜日 9:00～17:00
健康診断受診証明書	

トレーニングルーム

本格的なマシンを取りそろえたトレーニングセンター
専属のトレーナーが常駐して学生の目的やレベルに合った
きめ細かな指導・サポートをしています。

利用時間
月～金曜日 10:00～20:00
土曜・祝祭日 10:00～18:00
※ただし、時期によって異なる場合があります。

通信教育部事務室(1F)

2年次以上の学部生(法学部 法政策学科・情報学部・企業情報学部を除く)
は、卒業までに16単位以内を所定の手続きを経て、通信教育部開講科目を
履修できます。この制度の利用を希望する学生はこちらで詳細を確認して
ください。

体育館

1F トレーニングルーム
カフェテリア
[K.M. 36BANCHI]
軽食・飲み物
(自動販売機)
2F アリーナ

図書館

蔵書数は約90万冊。メディア
ステーションでは、デジタル
ビデオ教材やビデオライブラ
リーの利用も可能。

貸出冊数……5冊
期 間……14日間
返却期限内に借りている図書を持参した場合に限り、1回更新できます。

開館時間
授業期間 9:00～17:00
休暇期間 10:00～15:00
※試験期間は開館時間を延長します。

短期大学事務室(1F)

履修指導・相談、休学等の学籍関係、成績管理・各種
技能検定試験受付、奨学金や寮・下宿紹介などを取り
扱い、証明書自動発行機で発行できない証明書の発行
(手数料については学部生と同じ)

掲示板(11号館前)

学生への必要連絡事項は
こちらでお知らせします。
学校にきたら、まずここ
へ足を運びましょう。

国際センター(2F)

国際交流活動の企画・運営を行っています。
交換留学、海外インターンプログラム・海外研修、各種語学
検定試験の情報提供、機関紙「PHOENIX」の発行など

エクステンションセンター(2F)

各種講座・検定試験の受付窓口、MELOP利用手続き窓口
開講講座：公務員、宅建物取引主任者、販売士、
TOEIC、TOEFL、英会話、パソコンなど

学生相談センター(6F)

生活・進路・学業や人間関係をはじめ様々な心の相談窓口
学業・進路・就職・生活全般 月～土曜日 9:00～17:00
心理相談 月～土曜日 10:00～16:00
電話での相談や予約も受け付けています。
相談内容の秘密は厳守されます。
学生相談センター 受付電話 (06)6382-0266

MELOP(MEdia Laboratory Of Phoenix)(3・4F)

最新テクノロジーを駆使したコンピュータ環境を整備している会員制
マルチメディア施設(エクステンションセンターで入会手続きが必要)

利用時間
月～土曜日 9:30～19:00

ブックセンター「紀伊國屋書店」(1F)

雑誌から専門誌まで幅広い品そろえ。
10%割引にて販売しています。

営業時間
月～土曜日 9:00～17:00

購買部「高島屋」(1F)

文房具や生活用品などを学生価格で販売。
大学オリジナルグッズも取り扱っています。

ATM(2F)

UFJ銀行	郵便貯金
取扱時間	取扱時間
月～金曜日 8:45～18:00	月～金曜日 9:00～18:00
土曜日 9:00～17:00	土曜日 9:00～17:00

保健センター(N棟3F)

学生の健康管理(救急処置、健
康相談・測定)定期健康診断を
年に一度(2～4月)全学生対
象に行います。必ず受診して
ください。

学生課(N棟3F)

学生生活全般に関する窓口
クラブ活動、奨学金制度、寮・下宿、研修施設(学院島・千
里山セミナーハウス・安威川セミナーハウス)利用窓口など
なお、現住所・帰省地・本籍地に変更があれば、直ちに届出
を提出してください。変更手続きを怠ると学校からの重要な
郵便物が届かなくなります。

学生証再発行(手数料 1通 2,000円)
仮学生証発行(手数料 1通 300円)
学生団体旅行割引発行 無料

また、学内で落とし物・忘れ物をしたときは
こちらに問い合わせてください。

学生食堂

「カルチェ・ラタン」
「キャンパス・フード・
サービス」
「マクドナルド」
「どみぐら亭」

3号館

2号館

大阪学院 短期大学 (1号館)

8号館

12号館

13号館

11号館

フェニックス ガーデン

ザンクンプラザ

14号館

図書館

体育館 (9号館)

15号館

17号館

本館

5号館

20号館

本学のシンボル
45メートルの
時計塔

至所恵正電局

至所岸近駅

大学構造改革

～今考えるべきこと～

— 座談会出席者 — (順不同)

広報部長(司会)	植藤 正志	教 授
広報部長代理	小倉 康三	助教授
流通科学部長	金川 徹	教 授
経営科学部長	桑田 秀夫	教 授
経済学部長	白川 雄三	教 授
法学部長	南川 諦弘	教 授
外国語学部長	石田 久	教 授
国際学部長	島岡 宏	教 授
情報学部長	鎮西 清高	教 授
企業情報学部長	郡司 健	教 授
経営実務科長	松本ミサヲ	教 授
国際文化学科長	藤原 哲郎	教 授

担当学部の学部観・理念について

【司会】 今、大学の環境というのも非常に厳しくなっておりまして、大学そのものの存立や意義など改めて問われる時代になってきました。大阪学院大学・大阪学院短期大学は現在8学部2学科という総合大学の体裁を成しておりますが、学部そのものの内容とか、あるいは学部間の関連性というものに関しては、私たち教職員も十分に理解しているとはいえません。そこで学部長から、学部の特質や抱えている問題点、これからの方針などについてお聞かせいただき、大阪学院大学・大阪学院短期大学に対する理解を深める契機にしたいと思っております。よろしくをお願いします。

早速ですが、一つ目のテーマとして、それぞれの学部の持っている目的、あるいは特質というものをからめて、学部長から各学部に対してお持ちの学部観、理念というものをお聞かせ願えればと思います。



司会
植藤 正志 教授
広報部長

【金川】 学部の理念を投げかけられたときに、いちばん難しいのが流通科学部だと思います。学問というのはだいぶ細分化されていて、国際貿易、国際マーケティング、会計学、それぞれの立場によって流通に対するとらえ方が違っているわけです。流通という言葉で一くくりにして、みんなが分かったような感覚でいる。受験生諸君も流通といえば、今はやりのダイエー(笑)程度で終わっています。ところが、私はできるだけそれを包含した形で、経済の基本であり、私たちの日常生活に密接に関連している経済分野を広い意味で流通としてとらえようと考えてきたのです。

最近ではスペシャリスト、ゼネラリストとしてビジネスの第一線で活躍する人材を育成できるような、少し大げさにいえばビジネススクール型の学部に近いものを目指そうかというところで、一定の方向性を出してきたところなんです。それだけ難しい局面に立たされているのが流通科学部だと思います。

【桑田】 経営科学部というのは、企業経営に科学的要素を加えた企業の経営を対象にしています。企業経営ということになると、お客様が中心で、お客様の欲しいものを欲しいときに欲しいだけ作って提供する、またはサービスを提供することが第一です。そのときに必要な資材を調達し、物を製作し、流通を通して消費者がそれを使う、そういう一つの流れがあるわけです。

その際に、製造なら製造だけで満足でもダメなのです。やはり商品企画から始まって資材の調達・製造・流通・消費というトータルシステムの最適化ということを考えなければいけません。その際に重要なことは全体の経済性ということですが、しかし、経済性だけではなく人間の満足度、つまり、提供する側の人間の満足度、顧客の満足度も大切だと思います。それからもう一つ、ぜひ忘れてはならないのが環境ですね。環境を保護することも含めトータルシステムで経営を考えていかなければなりません。今一つトータルシステムといえば、例えば、情報を卸問屋やメーカーに伝えることにより、無駄なものを作らない、流さないといったような一つの流れを作る、そこで必須なのが情報なのです。昔の経営であれば、基礎理論をやっておけばよかったかもしれませんが、基礎理論だけではもうついていけない時代になっています。これも大事なことのなのですが、その基礎理論だけでなく、日々変化している現在の経営に適合するような経営でなければいけないと思っているわけです。つまり、経営科学部はトータルシステムで考えるということと、変化に適合した経営というものを考えるということ、この二つを大きなポイントとしています。



桑田 秀夫 教授
経営科学部長

【白川】 今、経済学というのは非常に注目を浴びていると思います。大阪学院大学の経済学部についていいますと、これまでのカリキュラムを解消して、まず1年

次の教育に当たろうということで、全教員がゼミナールを持つことにしました。2年次はワークショップを用いて、専攻科目と共通科目の橋渡しをしようということにしました。3年次からはいよいよ専門に入るのですが、そこで歴史を中心とした「比較経済」、政府の役割について学ぶ「公共経済」、そして、日本の産業について学ぶ「産業経済」、さらには今、注目されている「情報経済学」など、四つの分野を設け、学生が自分の行きたいコースを選び好きな分野で頑張ってもらおうということにしました。

また、授業の展開については、コンピュータをうまく使いこなせること自体が経済の勉強にもつながるという観点から、今大学の教育支援システムCaddie(キャディー)を使って授業を行っています。パソコンを使いこなしつつ勉強していこうというわけです。また、国際的にも著名な研究者を招いて講演会や教員との交流、学生とのシンポジウムも開催しています。そういうことを通じて実践的な教育をしています。

【南川】 要するに、法学部ではどういう人材を養成しようと考えているかだと思いますが、平成16年から判事・検事・弁護士の養成に特化した法科大学院制度が導入されます。この関係で法学部における法学教育の目標を改めて明確にする必要が生じてまいりました。私は、本学の法学部は、建学の精神に基づき、企業や行政などで中堅として信頼を得て仕事ができるような人材の養成を目標にすべきだと考えています。

【石田】 外国語学部は英語学科とドイツ語学科という二つの西洋語の学科がありますが、それぞれの言語を通じて、学生を国際的な相互理解の場で実践的に役立つような人材に育てたいと考えています。同時に、言葉を使うのは人間であるという認識に立って、その人間そのものの真価、例えば適切な情報の収集力であるとか判断力、そして主張すべきところはきっちりとその言語でできる力量を持たせてやりたい。しかも広い立場に立って、自分の文化だけを押しつづけるとか主張するのではなくて、相互の文化を理解していけるような学生を育てたいと思ってお

ります。

【島岡】 国際学部では21世紀のキーワードとして、それには基本的に三つあると思っています。一つは文明間の対話、それから反グローバリズムへの対応が二つ目、三つ目が近代科学技術文明の呪縛からの解放ですね。本来、国際化とかグローバル化というのは、人間の安全とか安心、豊かさというものを保証してくれるはずなんです。それが昨年の9月11日の米同時多発テロが物語っているように、どのようなことが原因で起こったのかその辺のところも疑わなければいけない時代に入ってきたのではないかと思います。

そこで考えなければならないのが、正義に代わる公正という新たな物差しを提起しなければいけないのではないかと思います。お互いが正義を主張すれば、その正義は絶対的正義でしょうから、それはぶつかり合って当たり前で、紛争解決にも何もならない。その意味でむしろその正義よりも、いかに公正でなければならないのかということが大事だと思います。

それから、もう一つは、物を考えるときに、同じ生活文化を持った広がりを持つ単位として見ていくことが大事ではないかということです。本来国を単位に見なければいけないのでしょうか、それよりも生活の広がりを持つ単位としてどう見ていくか、その場合、生活をする者の目線で今の時代をとらえて、いかに出口を見いだすのか、国際学部の課題だと思います。そのとき公正という一つの物差し、それが国際学部の特色かなと思います。

【鎮西】 情報という学部はいろんな大学にできているのですが、うちは情報技術だけの学部ではありません。コンピュータをうまく使いこなせるようになること、それは情報教育の核心ですからしっかりやっています。しかし、それだけではこれからの情報化社会ではだめで、情報そのものをどう理解し、判断するか、どう使うかということも非常に大事になってきていると思います。今、インターネット上には大量の情報があふれていますが、中には相当いい加減な情報もあり、それを見分ける力が必要になります。見分け

る力とは、結局、豊かな理性と常識のレベルを高めていくことによって得られると思うのです。情報学部は情報技術関係の先生とともに、情報収集、情報伝達に関する言語学や認知科学の文系あるいは自然情報を扱う理系の先生がたも大勢おられて、「情報科学コース」と「自然人間情報コース」の2コースに分かれています。「情報科学コース」は情報プログラムとかネットワークとかのスペシャリストを目指しており、「自然人間情報コース」はゼネラリストで、自然、社会の活動の中で情報をどう生かしていくかを学びます。

そういう2本柱のカリキュラムを立てて2年たったわけですが、世の中の動きを見ていると、ますます豊かな常識やシステムとか総合化のセンスが重要視されるようになってきていますので、情報学部の理念はいい方向へ進んでいるのではないかと考えております。



鎮西 清高 教授
情報学部長

【郡司】 企業情報学部は何を扱うかですが、ビジネス情報管理というのが一つの経営情報の核だとすれば、企業情報の場合はそれに会計とファイナンスが加わるわけです。ですから基本的な柱としては、会計とコーポレートファイナンスとビジネス情報管理の3本の柱を考えています。それから企業というものは、当然企業環境との関係がありますから、国際環境ビジネスも重要な核となるでしょう。ですから結局は会計・ファイナンス・情報管理というものを中核にして、国際環境まで含めた一つの情報空間における学問体系を構築していくというのが、企業情報学部の目標であります。国際情報も米国公認会計士だとか米国税理士とかいう形で、結構資格試験に密着しておりますので、資格試験への指向を通じて実践的な人材の育成を図るということになるかと思っています。

【松本】 経営実務科というのは、あくまでビジネスのプロを養成するという目的、

つまり社会に出て即戦力として役に立つプロを養成する目的で作られたところで、これから国際化が進む中で、世界的に通用するビジネスのプロを養成することが、最終的な目標でございます。そして、情報・会計・簿記という三つの専門コースがございまして、学生は自分たちの興味に応じて、それぞれの分野を深めていきます。

これから実業界に出て行って働ける人には、ある意味では全く相反する二つの能力が要求されると思うのです。一つは自分の分野についての非常に高度な技術と知識。もう一つは広い意味での教養と国際理解ということですね。ですから、今コンピュータをやりたいのだったらコンピュータ、あるいは簿記だったら簿記という具合にその知識と技術をしっかり勉強したらいいわけです。しかし、専修学校や専門学校でも簿記やコンピュータは教えていますし、技術的な面でいえば、ある意味では、専門学校のほうが、ある特定の領域のことに関しましては深く教えてくれるかもしれません。では短大と専門学校はどこが違うのかということですが、短大というのは専門的な技術にプラスして広い教養を身につけるという目的も持っています。そここのところを混同しないように考えていただきたいと思っています。



松本 ミサヲ 教授
経営実務科長

【藤原】 国際文化学科と国際学部は一見したところ同じようなイメージを持たれるかたも多いのですが、大学と短期大学のそもそもの目的というのは、少し違うと思うのです。短大の場合は、入ってきて2年後の就職が、第一の目標になっていると思います。その点に関して資格の取得、特に語学関係を生かした資格を在学中に取得するような指導をしております。

また、国際文化学科ではヨーロッパ、オセアニア、アメリカと地域を三つに限定し、そこを重点的に語学中心で教えていますが、それ以外に文化についてもい

ろいろ教えています。平成14年度からは、カリキュラムを変更しまして、時代の流れに即してコンピュータ関係の科目をかなり増やしました。また、今までからある語学を中心に学ぶコース、資格取得に重点を置くコース、コンピュータ関係の資格取得を中心とするコースの3コースを設置し、目的に応じて学びやすいカリキュラムを用意しています。

今、学部は何が求められているか

【司会】 今、各学部・学科長の先生から学部に関する考え方、あるいは理念をお聞きしました。では次に、教育環境や社会環境など外部環境からの影響を受けて、大学、特に学部は今何が求められているのか、というところをお聞かせください。

【白川】 経済関係では、今東南アジア諸国、特に中国との競争というのが非常にいわれているわけですね。大体所得格差が1対20、日本人が平均月収20万円とするならば中国人が1万円ぐらいですよ。同じものを作っているのはとても採算が合わない。それら発展途上国の追い上げが迫っているところに、大学教育の在り方が問われていると思います。そういった状況の中、大学を卒業した学生が企業に入りすぐに戦力にならなければ日本の企業自体の競争力が弱くなってしまいます。だから、教育の理念でいくと少し外れますが、経済的にいうならば、そういう学生の質の向上が企業の力となり、それが国際競争力になっていくのだという観点から大学教育に求められていると思います。国際競争力に耐えられるような学生を教育しなければならないのではないのでしょうか。



白川 雄三 教授
経済学部長

【司会】 その場合、本学としては何をやっていいのかなですね。

【島岡】 どの学部を目指すかによってそれはかなり変わりますよね。例えば、国際学部を目指す学生たちが希望するのは、

NGOや外資系ということになると思います。しかし、4年間で実際にそのような場で活動できる学生が育てられるかどうかという問題ですよ。昔でしたら大学院まで視野に入れた形の6年とか、それ以上の年数をかけて初めて育つという考えがあったと思います。それを4年間でいかにやるのかということですが、とても難しいですね。ですから4年で卒業する形でなくて、もっとその中にいろんな活動期間も入れて、長く期間を取って出る形、それで、社会や学生のニーズに応える形での育て方を考えなければいけないと思います。社会で即戦力となる人材ということで、国際学部では日本語教員養成課程、秘書課程等いろんな課程を作り、付加価値を高める教育に力を入れています。また、同じ授業時間帯にレベルの違うクラスを開講して、自分に合ったレベルの授業を毎回自由に選べるフリーチャレンジシステムを導入しました。

【鎮西】 今おっしゃったことは情報学部でも非常に重大な問題になっています。また情報では技術を教えても、2年か3年たちますとほとんど陳腐な状態（笑い）になって、新しい技術を身につけないとやっていけないという現実があるわけです。だから教育としては、今の技術を教え込むというよりは、その技術の基礎になる考え方を教育したいと考えています。しかし、学生は資格を取りたいとか技術を身につけたいという、強い願望があるのでその二つの間をどうつなぐカリキュラムを作っていくかということを今考えているところです。大学全体のことは申し上げられないのですが、学部としてはこれからその辺のところがポイントかと感じています。

【南川】 本学の建学の精神は、単に実践的な人材を養成するというのではなく、視野の広い、つまり豊かな教養を備えた実践的な人材を養成することなんです。基本的な法律知識を覚えることは必要だし、幸い宅地建物取引主任者、行政書士など法律関係の資格試験がたくさんありますので、そういう資格も取らせていきたいと思っていますが、ただ単に法律知識を詰め込むというような教育はしたくありません。法律が変わってし

まえば、せっかく覚えた法律知識が何の役にも立たなくなってしまう、そんなことでは意味がありませんので、やはり、リーガル・マインドと申しますか、物事を法的に考え、適正・的確に判断ないし解決できる能力が身につくような教育をしていきたいと考えています。そして、豊かなリーガル・マインドを養うためにも、政治・経済などの隣接科目や一般教養科目の修得を積極的に勧めていきたいと考えています。



南川 諒弘 教授
法学部長

理想と現実のバランスをどう埋めるのか

【司会】 「知識だけでなく、物事を解決する能力を身につけさせる」本当にそうだと思うのです。ただ、一般的にそういう教育の環境を整えたり、現実カリキュラムの中へそういう理念や考え方をいれ込んでいこうとすると、各学部でいろいろな問題が起こると思うのですが、その理想と現実のバランスをどのように埋めていったらいいのでしょうか。

【南川】 経済不況、少子化などのほか、法科大学院の導入という特殊事情があって、どの大学でも法学部教育の在り方が問われています。現在、社会が法学部教育に何を求めているかを問い直し、魅力ある法学部作りに取り組んでいますが、それに成功すれば、社会的評価の面で本学法学部が大逆転現象を起すことができるのではないかと、と思っていますよ（笑い）。

【島岡】 国際学部の場合は絶えず変化していますから、どこへ針路を取ろうかということなしには実際に動かないのです。だから共通の意識をどこかで確認し合いながら作業を進めていくことが必要なのです。何とか共通意識を持って、どのようにカリキュラムに入れ込んで、それに合わせて講義をしようかという意識だけは絶えず持ちながらいる学部ですが、なかなかそれが学生にうまく伝わってこないという苦しさはあり

ますけど（笑い）。

【司会】 外国語学部としては、例えば、英語とか外国語というのは、注目を集めている割に日本人は使えないということに対する課題、問題点を明確にするということが、将来につながりますかね。

【石田】 もちろんつながると思いますね。技術としての英語・ドイツ語などの言葉というのは、割と色々な形で標的にされやすいというか、注目を浴びやすいのですが、これは新しい問題ではないのですよ。むしろこれからは、英語そのものがヨーロッパ圏でも多様化して、イギリス人が話す英語、アメリカ人が話す英語だけが標準とされていたのが、そうではなくなってきている。徐々にそれが広がっていくと思います。日本人だけが英語ができなくてはいけないと思うのですが、ただ大学のカリキュラムでは先を急ぎすぎるあまり枝葉末節的な部分である技術的な面を強調しすぎて根本的なところが抜けてしまうことになりかねません。外国語教育に対する見直しという考え方から、一時期ですね、例えば文の構造を詳しく学ばせるのは無駄であるとして、先へ先へ進んでいくという傾向がありました。しかし、そうするとあるところで進歩が止まってしまうことが観察されました。新しい文を生み出す力がつかないからなのです。それではコミュニケーションの能力は上がらないんですね。新しい文章を作り出す一別の構文で言い直す—そういう能力を身につけてほしい。むしろこれからは、基本にもう一回戻って、技術的に改めなければいけないところがあると思うのです。それはたぶん聞き取り力ですね、これは技術だと思います。それと同時にもう一つは、理論的なところで、文章の構成・構造をしっかり押さえないといけないということですね。

ただ全体としていえることは、そういう問題を自分で発見できる人を育てたいということなのです。自分の英語が通じなかったらどうしたらいいのか人に聞くだけではなく、まず、問題を自分で発見できる、そして、直してあげる、そういう意識を学生に持ってもらいたい。長い間英語を勉強しても英語が身につけていないのはどこがいかなかったのか、とい

う問題を発見してほしいのです。こんなものは高校で習ったからもういいとかそういうことを軽々しくいわないで、きちりと謙虚に反省もし、そして問題の在りかを悟るという、そういう態度が社会に出てから役に立つと思うのです。つまり個々の技術も大事ですけど、個々の技術を教えるときにその技術の革新のしかたを教える。それをセットで埋め込んでいかなければいけません。



石田 久 教授
外国語学部長

【桑田】 私は先ほど石田先生がおっしゃったことに同感ですが、経営というものにはいろんな問題が振りかかってくるわけです。それで、その問題を解決するには、あの先生のこの理論を使ったらいいのではないか、あるいはこの方法論を適用したらいけるのではないかと、そういうことがパッとひらめいてくるといえると思うのです。卒業して実際に問題にぶつかったときに、方法論をポケットの中にたくさん入れておいて、そして問題が出てきたときにポケットの中からこの問題がこれで解けばいいという方法論を出してくる、そういう応用の効くような教育のしかたも大事であろうと思います。もちろんそれには理論も方法論も大事だと思えるのです。そういう両側面を学生諸君が理解して応用していけたらいいと思うのです。うちの学部には二手ありまして、一つは、家の跡を継ぐケースが約3分の1。後は勤めるといことですが、どちらにしても問題をどう解決するかというのは経営にとって大事なことだと思います。

【郡司】 企業情報学部は資格取得を支援するという技術志向ですね。特に企業情報の場合、まず会計の3級ぐらいはみんな取ってほしいと思うわけです。これは資格が直接世間の役に立つということよりも、会計の基礎知識を知らないビジネスも、経済社会の動向も本当の意味で分かるはずがないということです。だから1・2年次で3級ぐらいはまず持つてほ

しいというのが一つです。3・4年次になると、目標としては税理士・公認会計士・中小企業診断士・情報管理関係の資格を目指すことになるのですが、これらは、大学卒業程度のかかなりレベルの高い資格試験なのです。ですから一人でも多く受かってくれればいいのですが、受からなければ意味がないのかというと、そうではありません。実際、税理士試験を受けようとしたら専門書を読んでかなりレベルの高いところまで勉強をしなくてはならない。もちろん試験を受けることにより受からなくても相当高度の専門知識はつくわけです。そういう意味では資格指向であっても、実際には学問的にも高度の専門的なレベルのところまでいけるのではないかと思います。だから私も本来はゆとり志向なのですが一人でも多くそういう学生を増やしていきたいと考えています。



郡司 健 教授
企業情報学部長

短大で求められているものは何か

【司会】 先ほど短大は厳しいというお話でしたが、課題というのは大変多いと思うのですが。

【松本】 実は短大で初めて教えたのですが、短大というのは、入学して半年たった、つまり1年次の後期になったら、もうすでに就職ガイダンスが始まるという事情があるんですね。はっきりいって学生自身も、まだ進路が決まってないというのは経営にとって大事なことだと思います。自分が将来何をやりたいのか、どちらの道に進みたいかが分からないままに就職ガイダンスを受けているわけです。短大の場合は大学の学部と違って、ひたすらビジネスのプロを養成するのが本来の目的だったと思うのです。ですから入学して半年の間に、実際仕事に就く上でも厳しいものがあるということも教える必要があるのではないかと思います。

【藤原】 全く松本先生と同じですが、2年

間というのは短いんですね。10月になったら就職活動をしなさいよとゼミナール生に言うのですが、学生はほとんどそういう意識がなくてずるずると1年が終わってしまう。2年次になると急に慌てだすのですが、以前はもう少し目的意識を持った学生がいたと思うのです。例えば、短大に入学して大学に編入する学生や、2年後には必ず就職するというはっきりとした目標を持って入学してくる学生がいたのですが、ここ数年、目的意識を持たずに入ってくる学生が増えてきたような気がします。

私たち教員のほうは、カリキュラムを5年に1回ぐらい見直し、時代の流れに合うものを作っているのですが、学生のほうがそれに乗り遅れてしまって、学生にどう目的意識を持たせるかが課題ですね。



藤原 哲郎 教授
国際文化学科長

【松本】 入学してから半年間が非常に大事だと思うのです。1年次の最初の半年間が……。

教員に何が求められるか

【司会】 もう一つの問題は、学生に何を期待するのかということですね。逆にいえば、私たち教員の問題につながってくるのですが、一体教員に何が求められているのかということでもあると思うのです。ご意見があればお聞かせください。

【金川】 難しい質問ですね（笑い）。実際に学生諸君に私たち教員がどう対応していくか、学生はどのような意識を持っているか、流動的なものがあるのです。では私たちはその流動的なものに何でもカリキュラムを対応させていけばそれで済むのかといえば、必ずしもそうではない。つまり、時代の先端をいくようなカリキュラムを組んで、それに対応した講義内容を作っても学生は必ずしもそれについてきているわけではない。要するに科目名称を変えただけで済むわけではないということも、学生の受講態度から分かっ

ている。

例えばカリキュラムを改正するとき、私たちも意識改革をしなければいけないといわれます。それが果たして大学というものの本来の目的なのだろうかと考えたとき、現実とのギャップ、理念との違いに気がつくのです。その一つひとつに対応していくことが、私たち自身に対する問いかけであることは分かっているのですが、人間教育というものの中に大学はどういうふうにあるかというのは時代の流れからか、ずいぶんあやふやになっていると思うのです。そのつどカリキュラムを変えていくことも大事かもしれませんが、基本的で変わらない部分もあると思います。特に最近のインターネット、インターフェースという言葉がありますが、その流通がサービス産業と解釈しますと、インターフェースはフェースtoフェースである。最終的には人と人、真心あるいはホスピタリティ、そうしたものがビジネスの第一線で展開されるものだという考え方を執ろうとしているわけです。ですからやっぱり教育の原点というものを、人と人がコミュニケーションをすること、人と触れ合うこと、その本来の教育の原点を私たちは踏まえておくべきでないだろうかと思います。



金川 徹 教授
流通科学部長

教員らしさとは何か

【島岡】 その教員の在り方、どういうふうな教員として接すべきかということは、先生がた皆さん共通の意識としてお持ちなんですね。ただ、全体として学部としてはこうやりましょうというのは、受講者数などの条件で違いすぎますね。AO入試でよく感じるのですが、明確に何をやりたいのかほとんどの学生が自己の目標を語ってくれます。そのような学生へのサポート体制をどう組むか、また明確な目的を持っていない学生には、目的を作り出せるようにすることが、学生確保に

もつながってくるのかなと思います。

【桑田】 そうですね。そして目的意識を持っていない学生には持たせて、教員と学生との結びつきを強くしてやらないといけない。

【島岡】 目標を持っている学生からサポートしてやってあげなければならないと思います。それしかないでしょうね。

【松本】 短大生の場合は特に学生の意欲面でばらつきがありますので、入学後の半年間は桑田先生がおっしゃったように自分が何をやりたいか見付けさせることが重要です。ただ本当に意欲を持って勉強しようとしている学生は、私の周りにもかなりおります。夏休み中もゼミナールの本をこれだけ読んだのですが、ほかに何を読んだらいいですかと電話をかけてくるような熱心な学生もいるのです。こういった学生がどこまで伸びるか、できるだけ伸ばしてやりたいということは何らかの先生と話していますが、今のところその体制がまだ不十分ではないかと思っています。

【南川】 求められる教師像ですか（笑い）。私はこういうふうと考えています。国公立の先生は研究7割、教育3割という割合で仕事をしてよいのに対し、私学の先生は逆に研究3割、教育に7割力を割くべきであると。しかし自らを顧みて、そうであったとはいえません。私の授業は分かりやすいとよくいわれます。授業が分かりやすいというのも大事ですが、ソクラテスメソッドによる授業のように学生自身に考えさせるような授業や、ビジュアルな手段を用いた授業など、工夫すべき点がたくさんあります。そしてもう一つ、大学は人作りをするところだという点です。法律的に正しい判断ができるためには、その人が人格的に立派な人でなくてはなりません。人作りが教師の基本的任務だと思います。

大阪学院大学の将来像

【司会】 学部に対する理念、制度、人とのコミュニケーション、この三つの要素を融合させることができれば、大学はもっとよい方向へ進んでいけるのだろうと思うのですが、我々がいちばん心配してい

るのは、将来像ということになると思うのです。各学部や学科の先生がたが、一つの学部だけではなくて、この8学部2学科の全体としての将来像をどのように描いておられるのか、この大学をアピールするとすれば、どんなアピールをするか、いかがでしょうか。



小倉 康三 助教授
広報部長代理

【白川】 今どの大学でもどんどんIT化とかコンピュータ化とかいうことがいわれています。うちの大学でも時間割や試験問題がホームページで見られるとか、中には落とし物まで（笑い）探せると、非常にコンピュータが活用されてきているわけです。一方では、全部ホームページでいいのかといった疑問も出されているわけです。やはり教員との触れ合いも強化していかなければならないと思うのです。コンピュータも使いこなし、また一方では人とのコミュニケーションもできるような、両面をつないだ人間を作っていく教育が必要ではないかと思えますね。

【金川】 やはり今白川先生がおっしゃいましたように、人を教育するためには自分もそれなりに人格を形成しておかなければならない。ですから、大学教員らしさとは何かとさき広報部長がおっしゃいましたが、今いちばん私たちに求められているのは人間らしさではないかと思っています。

私たち大学の教員は、大学の教職課程でやるような心理学や教育原理などはやらなくても済んできたのです。教育の基本的な原理というものとはそこにあるということとを私たちが明確に意識しておかないと、大学というちょっと高いところで教育者ぶっているようなところがあるといわざるをえません。いかにして人を育てるか、そのために自分がいかなる人間であるべきかということを自問自答していかなければならないと思います。

【島岡】 人を育てるわけですよね。そのときに再確認しておかないといけないのは、

本来大阪学院に与えられていた使命だと思います。ある時代前にもう一度戻らなければならないと思うのです。そこに本来の人間をいかに育てようかという原点があったと思うのです。そこへいかに早く戻るかで将来が見えてくると思うのです。同時に今の時代の人間教育の在り方を加味することで、おそらくもう一度その命というのでしょうか、エネルギーが芽生えてくるのではないかと思います。【金川】 学部を細分化し、スペシャリストを養成することに突き進んでいますけども、基本的には建学の精神としてずっと生かしてきたように人としていかにあるべきかということがあったと思うのです。それを細分化していろいろな学部ができて専門的な課程を追究するがために、何か根本的な部分を今私たちが忘れていような気がするのです。そこへ私たち自身も立ち返っていくべきではないかと思えますし、そこに教育の出発点があったと思うのです。

【島岡】 18歳人口がどんどん減っていけばいくほど、その層をもう一度本当に見直す必要があると思いますね。



島岡 宏 教授
国際学部長

【南川】 私はここへきて15年です。先生がおっしゃるような時代は経験していませんが、卒業生を見る限りではいい教育を受けたのだなと思うのですよ。

【島岡】 そのときも、学生の潜在的能力ですとか人間性は豊かでしたね。

【南川】 そうなんですよ。潜在的能力というのが大事なんですよ。

【島岡】 潜在的能力があって、人間性が豊かであって、おそらくその人間性のところに訴えた教育をやっていたと思うのです。

【南川】 有名大学に入る学生は、知識をたくさん持っていると思います。しかし、そんな学生より、好きなことをやっていたために知識は少ないが、潜在的素質は十分あるという学生を確保できたときに本当の教育ができると思います。

【司会】 ありがとうございます。初めて学部長の先生がたにお集まりいただいて、ご意見をお聞きしたわけですが、一つは、やはり学部・学科を本体にしてそれぞれが特殊性や目的を追求していくのは当然だと思うんです。ただ、本学は総合大学ですので、全体として、大阪学院大学として収斂できるものがあるのかが問われていくのではないかと思います。その収斂するその要素が一体何なのか、今回の座談会がそれを理解する一つの契機になったり、また大学の将来像を少しは見定める契機になればと思っています。いろいろなご意見をお聞かせいただきまして、ありがとうございました。



CAMPUS LIFE



オーディション

流通科学部 4年次生 出路 英子
経済学部 3年次生 出路 幸子



SPOT

私たちは1歳違いの姉妹で、小さいころから何をするのも一緒でした。ふたごのように育った私たちは、気がつけば同じステージに立ち、♪歌うこと♪の楽しさ、そして音楽への大きな夢を同時に抱いていました。高校生になる前から始めたバンド。ライブハウスの小さなステージで歌うことを夢見て胸いっぱいだった、そんな楽しい毎日を過ごしていたころを思い出します。

「大好きな有名バンドのコピーをしたい！」そこから始まった私たちの小さなバンド『ウルトラビーム』が抱いた夢は、あまりにも大きく、果てしない「モノ」への挑戦でありました。どれだけくじけそうになっても、夢に向かわせてくれたのは、ギターやベースやドラムの中で歌うこと、音楽だったのです。

大学入学後は、ライブ活動よりオリジナルの制作に力を入れました。レコーディングをするたびにレコード会社にデモテープを送ったり、オーディションを数多く受けました。そんな中、去年の秋、フジテレビからオーディションの連絡をもらったのです。それはフジテレビ主催の「クラリオン・スカラシップ・ミュージックオーディション・MEDAMA2001」。エントリーした9119組の中から20組が選出され、約一か月間のインターネット投票によってさらに選出された10組のみが、東京お台場で開かれるファイナルライブに進めるというものです。私たちは、投票してくださった皆さんのおかげでファイナルライブに出場できる10組の中の1組に選ばれたのです。

ファイナルオーディション、テレビ関係者やレコード会社のかたがたで埋め尽くされたライブ会場で歌うのはとても緊張しました。歌い終わった瞬間、二人とも「楽しかった。気分が乗ってよかった」と心から思えました。「いつか本物のステージに立つ！」そう決心した日から、「プロ」という文字がいつも脳裏をよぎり、純粋に歌う幸福感を忘れかけていたのかも知れません。この本番中、私たちは「歌う楽しさ」を改めて実感しました。

いよいよ結果発表！10組全員がステージに上がり、そのときを待ちました。1位受賞者と同等の資格でプロデビューできる「特別賞のアゼスト賞は『ウルトラビーム』に授与されます」という発表。なんと私たちではありませんか。その瞬間の拍手とたくさんの方々のカメラのフラッシュ……私たちは一生忘れないと思います。

今回のオーディションで受賞できたのは、あきらめずにやってきた昨日という日があったからです。そして、大切なことをもう一つ学びました。それは「人の温かさ」です。インターネット投票という形のこのオーディションでは、パソコンの画面からリアルタイムに分かる私たちへの1票1票がとても大切でした。オーディションサイトの掲示板に届く、日本全国からの応援メッセージ、顔も見たことのない人々からの「頑張って！」という言葉は、私たちにとって、本当の「宝物」になりました。

大阪学院大学でも、ゼミナールの水原先生をはじめ、多くの先生がたや職員のかた、友達に支えられました。私たちは夢をかなえるためならどんな努力でもする自信があります。しかし、どれだけ努力しても二人きりではかなえられない夢、周りの人々に支えられて初めてかなう夢もあるのだと今回感じました。

よいバンドメンバーに巡り合えたこと、大阪学院大学の心温かい人々に力を貸していただいたこと、そしてこれまでずっと支えてくれた家族に心より感謝しています。



CLUB ACTIVITIES

CLUB

ACTIVITIES

写真部

「第33回 学外展」開催!!

私たち写真部は、現在10名の部員で活動しています。基本的な活動内容は、年に2回行われる展示会や岸辺祭、文化学術祭に向けて作品を作り上げていくことです。今年も5月から行われる「第33回 学外展」に展示する作品を撮影するため、3月3日(日)から沖縄へ合宿に行きました。撮影するときは、自分たちの作品をできるだけ多くのかたがたに見ていただき、その写真から少しでも何かを感じていただける作品になるよう心掛けています。

いい作品を作れるように部員一同頑張りますので、皆さんぜひ展示会のほうに足を運んでください。

【第33回 学外展】

日 時：5月30日(木)～6月4日(火)

午前11時～午後7時まで(最終日は午後5時まで)

会 場：心齋橋ビルゼンギャラリー

大阪市中央区心齋橋筋1-3-15 Tel (06)6251-7751

企業情報学部 3年次生 保宗まどかさん(部長)の声

皆さんは“写真部”というと少し地味なイメージを持たれているかもしれませんが、月曜日から金曜日まで毎日部室に集合し、展示会前には写真の現像や写真を張るパネルを作るため夜遅くまでみんな頑張っています。その中で尊敬できる先輩たちや、ささいなことで泣いたり笑ったりできる仲間に出会えたことを誇りに思い、感謝しています。私は写真部に入学して、大学での自分の居場所を見付けることができました。

皆さんも充実した大学生活を送るため、何かクラブ活動をしてみてはどうでしょうか！

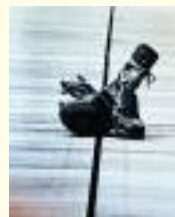


【平成13年度の主な成績】

第40回 岸辺祭 展示発表の部 優秀賞



「手を離さないで！」経済学部 4年次生 有川 美智子



CLUB SCHEDULE

CLUB

SCHEDULE

体育会

クラブ名	日 程	行 事 ・ 大 会 名	場 所
体育会本部	6月9日(日)～30日(日)	大阪学院大学対追手門学院大学スポーツ交流戦	追手門学院大学
硬式庭球部	6月8日(土)～16日(日)	関西学生男子テニス3部リーグ戦	各大学テニスコート
	6月29日(土)～7月7日(日)	関西学生夏季テニストーナメント予選	各大学テニスコート
硬式野球部	6月(未定)	関西六大学野球連盟新人戦	未定
ゴルフ部	6月3日(月)	関西学生女子選手権予選	スポーツニッポンカントリー倶楽部
	6月18日(火)・19日(水)	全日本ゴルフ対抗戦、全日本女子ゴルフ対抗戦	レンボーヒルズ・ゴルフクラブ
	6月24日(月)	関西学生選手権予選	滝野カントリー倶楽部(八千代コース)
自動車部	6月1日(土)～30日(日)	走行会(ジムカーナ)	名阪スポーツランド
	7月1日(月)～31日(水)	走行会(ダートトライアル)	ブラザ阪下
女子バレーボール部	5月19日(日)	関西大学バレーボール連盟女子春季リーグ戦(4部)	本学(対 大阪外国語大学)
	5月26日(日)	※入替戦は6月2日(日)に行います。	相愛大学(対 神戸大学)
ソフトテニス部	5月26日(日)・27日(月)	関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会	各大学テニスコート
	6月(未定)	大阪学生ソフトテニス優勝大会	各大学テニスコート

文化会

クラブ名	日 程	行 事 ・ 大 会 名	場 所
文化会本部	6月10日(月)～22日(土)	文化・学術祭	本学学内
アメリカ民謡研究部	6月19日(水)	春季定期演奏会	光明アムホール
企業診断研究会	5月30日(木)～6月1日(土)	学外展示	岸部市民センター
茶道部	6月上旬(未定)	春季茶会	本学1号館01-01教室(和室)
写真部	5月30日(木)～6月4日(火)	学外展	心齋橋ビルゼンギャラリー
書道部	6月21日(金)～23日(日)	学外展	岸部市民センター

独立団体

クラブ名	日 程	行 事 ・ 大 会 名	場 所
混声合唱団「Chor Kreis」	6月16日(日)	大阪府合唱団	貝塚コスモシアター
吹奏楽部	6月2日(日)	全日本学生吹奏楽連盟 大学バンドフェア	尼崎市総合文化センター アルカイックホール
チアリーダー部	6月23日(日)	関西チアリーディング選手権大会	大阪府立体育会館

※現在未定の行事・大会につきましては、随時詳細が決まり次第ホームページでお知らせします。
http://www.osaka-gu.ac.jp/new_club/report/index.html

学生相談センターだより

ちょっと立ち止まって……

カウンセラー 山本 美保

私たちはその日その日のなすべきことに追われ、とりあえずそれらをこなしていくことで、毎日が過ぎ去っていくということはないでしょうか。あるいは、時間はたっぷりあるけれど、ただ何となくその日をやり過ごしているとか……。この辺りでちょっと立ち止まって自分を振り返ってみたい、自分のことを感じてみたい、先へ先へと駆け立てられるように進むのではなくて、今を生きられるようになるためにしばし態勢を整えたい、そんなふうに感じておられるかたも多いのではないのでしょうか。また、あのときのモヤモヤ感、キュンとなるような胸の痛み、何だかよく分からないままにほかのことで気をまぎらわしつつ、でもどこかでしんどさを抱えながら生きていることはないのでしょうか。もし自分と触れ合ってみることを通してこれらの感じが何なのか、最近の自分の生活が何なのかについて、自分にぴったりくる言葉やイメージを見付けることができたなら、ずいぶん私たちはすっきりと落ちついた感じになれるのではないのでしょうか。そして、場合によっては、次の行動に向かえる決断なり見通しなりが生まれてくるかもしれません。

軽く目を閉じて、静かにゆったりと楽にして座ってみてはいかがでしょうか。そして、「このごろどんな感じで生きているのかなぁ」、「今、どんな感じ、自分の中に感じているのかなぁ」、「何か気にかかっていることあるかなぁ」などと問いかけて、自分の中に感じられるままに、あるいは何かが浮かんでくるままに、しばらくそれと一緒に過ごしてみましょう。自分に対する批判的な言葉や考え方はちょっと脇へ置いておいて、優しい気持ちでその感じと一緒にいてみてください。何かびったりした言葉とかイメージが、体の中から浮かんでくるでしょうか。浮かんできたらそれをじっくり味わってみましょう。そこからまた次の感じや言葉、イメージが展開してくるかもしれません。それで十分だと思ったら、ゆっくり目を開けましょう。いかがでしたか？

今、簡単にご紹介してみましたが、こうした内的体験のプロセスを、カウンセリングでは『フォーカシング』と呼んでいます。関心を持たれたかたやもっと知りたいと思われるかたは、どうぞ学生相談センターへお問い合わせください。慣れればお一人でも、また仲間どうしでもできます。

相談したいときは

- ◆ 直接、学生相談センター「3号館6階」まできてください。
- ◆ 保護者や友人と一緒にでも、また保護者のみでも相談できます。
- ◆ 電話での相談や予約も、受け付けています。
- ◆ 相談内容の秘密は厳守されます。

<相談時間>

学業・進路・就職・生活全般 月～土曜日 9:00～17:00

心理相談 月～土曜日 10:00～16:00

※日・祝祭日および事務休業日はお休みです。1回の相談時間は、原則として1時間以内ですが、継続して利用できます。どんなことでも結構ですので、気軽に学生相談センターを訪ねてください。

学生相談センター受付電話 (06) 6382-0266

CAMPUS NEWS DIGEST

人 事

新任〔平成14年4月1日付〕



流通科学部
奥田 真也 講師
担当科目
簿記原理A・B、
外書講読Ⅰ、ゼミナールⅠ・Ⅱ



経営科学部
遠藤 芳江 助教授
担当科目
英語Ⅲ・Ⅳ、ゼミナールⅠ



経済学部
久我 清 教授
担当科目
ミクロ経済学Ⅰ、
ゼミナールⅠA・ⅠB・Ⅱ



法学部
東 泰介 教授
担当科目
国際法Ⅰ・Ⅱ、
ゼミナールⅠ・Ⅱ



法学部
木村 義和 講師
担当科目
民法法概論、担保物権法、
民法、ゼミナールⅠ・Ⅱ



国際学部
内田 次信 教授
担当科目
西洋文学Ⅰ・Ⅱ、古典語Ⅰ・Ⅱ、
地域演習



国際学部
安田 一之 助教授
担当科目
地域演習、特別活動、教育実習、
同和教育、教師論



国際学部
杉本 喜美子 講師
担当科目 ミクロ経済学入門、
マクロ経済学入門、国際金融論、
地域演習、ゼミナールⅠ



国際学部
宮本 圭造 講師
担当科目
日本の生活と文化、日本文化史、
ゼミナールⅠ、日本史



情報学部
橋本 昭洋 教授
担当科目
計算機アーキテクチャⅠ・Ⅱ、
データ構造とアルゴリズム、
遠伝子情報処理、ゼミナールⅠ・Ⅱ



国際センター
B.Y.キムラ 客員教授
担当科目
英語基礎会話Ⅰ、英会話Ⅴ、
パブリックスピーキング

退職〔平成14年3月31日付〕

法 学 部 畠村 繁 教授

法 学 部 田中 整爾 教授

国 際 学 部 松本 仁助 教授

国際センター G.E.コマロフスキー 客員教授

CAMPUS NEWS DIGEST

入学式



〔4月4日(木) 体育館〕
平成14年度 入学式が執り行われ、大学2,311名、大学院63名、短期大学139名、計2,513名の新入生が希望に胸を膨らませ入学しました。
白井総長から学生生活の心構えと励ましの言葉がかけられるとともに、建学の精神と教育の理念が語られ、保護者に対しても本学への理解と協力が求められました。

ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ



平成14(2002)年1月、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にある、ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジと学術交流協定を締結しました。
カピオラニコミュニティカレッジは、1957年に創立されたカピオラニ技術学校が前身となっています。1965年、同校プログラムの再編を機に州立であるハワイ大学の教育機構に統合され、カピオラニコミュニティカレッジと名称変更し、文系、理系の両分野の研究が可能な総合カレッジとなりました。
地域社会に貢献できる専門性の高い人材の育成を目指し、ホテル・レストラン、看護、会計、手話、芸術、天文、法律等、多岐にわたるカリキュラムの提供を行っています。
キャンパスはオアフ島のシンボルであるダイヤモンドヘッドの中腹に位置し、広大なキャンパスでは350名の教授陣のもと、およそ7,000名の学生が学んでいます。

マクドナルド・どみぐら亭 オープン!



〔3月26日(火) 12号館学生食堂〕
「マクドナルド」、「どみぐら亭」が新しくオープンしました。「マクドナルド」はフリードリンクを設置するなど、各種商品を割引価格で提供します。また「どみぐら亭」では、雑誌でも取り上げられた看板メニュー、ハヤシライスをはじめ、ほかにもトッピング可能なカレー、ラーメンを取りそろえています。なお、営業時間は平日10時から17時、土曜日は10時から14時です。皆様お気軽にご来店ください。

TIMETABLE

5月下旬 前期末卒業説明会(大学)
6月 2日(日) 創立記念日(全学休講)
7月 8日(月) 前期授業終了(大学・大学院)
9日(火) 前期補講(大学・大学院)(至11日(木))
12日(金) 前期試験開始(大学)(至24日(水))
夏期休暇開始(大学院)(至9月30日(月))
13日(土) 前期授業終了(短期大学)
15日(月) 前期補講開始(短期大学)(至16日(火))
17日(水) 前期試験開始(短期大学)(至24日(水))
25日(木) 夏期休暇開始(大学・短期大学)
(至9月30日(月)ただし、後期オリエンテーションが学部9月24日(火)、短期大学9月26日(木)から始まる予定です)

INFORMATION

May ~ July

庶務課

保護者就職説明懇談会

7月6日(土)・7日(日) 10:00~(2日間とも同じ内容となります。)

就職講演のほか、昨年の就職結果および今後の就職状況の見通しに関する説明、さらに希望者には個人懇談も行う予定です。

対 象: 保護者(在学生 大学3・4年次生、短期大学1・2年次生)

2002 フェニックス フェスティバル ~ブラザーズ カジメロ ハワイアンコンサート~

6月20日(木) 18:30開場/19:00開演

場 所: 17号館前 特設ステージ

入場料: 無料

問合先: フェニックス フェスティバル係 Tel (06)6381-7122

対 象: 保護者・在学生・一般

国際センター

夏期海外研修・海外インターンプログラム実施について

研 修 名(国 名)	期 間
トリア大学夏期研修(ドイツ)	7月25日(木)~8月19日(月) <26日間>
カナダ・インターンプログラム ●旅行業務コース ●ホテルコース	7月25日(木)~9月22日(日) <60日間>
セント・トーマス大学夏期研修(アメリカ)	7月26日(金)~8月16日(金) <22日間>
アメリカ西海岸・インターンプログラム	7月29日(月)~8月20日(火) <23日間>
オーストラリア・インターンプログラム ●スクールインターンコース ●通訳、翻訳コース	7月31日(水)~8月21日(水) <22日間>
復旦大学夏期研修(中国)	8月3日(土)~8月24日(土) <22日間>
ワイカト大学英語集中コース(ニュージーランド)	8月17日(土)~9月16日(月) <31日間>
オランダ・インターンプログラム	8月19日(月)~9月15日(日) <内26日間>
イタリア・インターンプログラム	8月19日(月)~9月15日(日) <内19日間>
カナダアウトドア研修(カナダ)	8月21日(水)~8月31日(土) <11日間>
ケンブリッジ大学夏期研修(イギリス)	8月24日(土)~9月15日(日) <23日間>
オルレアン大学夏期研修(フランス)	9月2日(月)~9月23日(月) <22日間>

IP (TOEIC学内受験)およびITP (TOEFL模擬試験)実施について

試験の種類	IP (TOEIC学内受験)	ITP (TOEFL模擬試験)
	TOEICとは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテストです。IP (TOEIC学内受験)は、一般公開テスト(現在6,615円)に比べ低料金でスコア配付も早く、就職活動の際に履歴書にも記載できます。	国際標準の英語能力試験、特に英語圏の大学・大学院への留学を目指す人には英語力の証明として必須の試験であるTOEFLの模擬試験で、正規のTOEFL受験料(\$110)に比べ、低料金で受験できます。本番までのスコアアップのための練習としてご利用ください。
試 験 日	6月30日(日)	6月29日(土)
時 間	13:00~15:30	16:10~18:40
受 験 料	4,300円	2,960円
申 込 期 間	5月1日(水)~6月19日(水)	5月1日(水)~6月5日(水)

注)申込受付は、エクステンションセンターで行います。